

## 『学校健診後治療調査』報告を受けての養護教諭アンケート

栃木県保険医協会は、今年の春に実施した学校健診後治療調査報告を県内の小学校・中学校・高校 585 校に送付しました。(同アンケート結果は別途資料を参照)。

これらの結果を、各学校の学校長、養護教諭に文書にて報告。あわせてアンケートを実施したところ 119 校 (回答率 20.3%) より回答を得ました。

健診後に要受診となったうち、未受診となった児童・生徒をなくす対策として、「国や自治体など行政側に優先的に取り組むべき課題は」との質問には、①保護者や児童・生徒本人への健康教育の充実を図る 50.4% (60 名)、②眼鏡や補聴器の購入費用の助成を手厚くする 49.6% (59 名)、③子ども医療費助成制度の拡充 42.9% (51 名) の回答順となりました。

また、予算を確保して養護教諭を複数体制とすることを 3 割超が求めており、教育現場では養護教諭が不足している実態が浮き彫りとなりました。

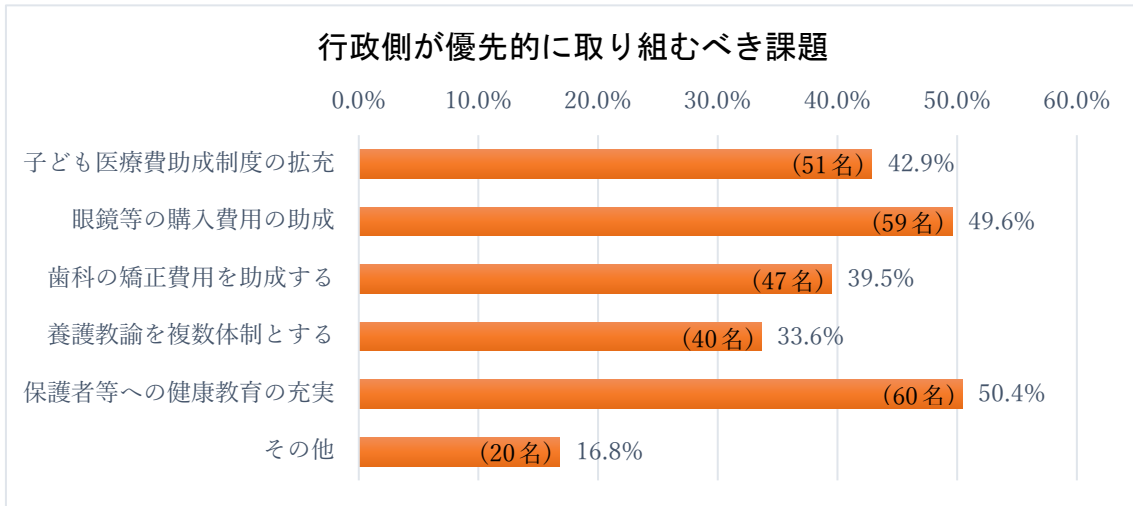
**基本事項** 栃木県内の小学校・中学校・高校 585 校のうち 119 校より回答を得た。各学校ごとの回答数や割合は以下の通り。

	回答校/該当学校数	割合
小学校	68 校/345 校	19.7%
中学校	35 校/166 校	21.1%
高校	16 校/ 74 校	21.6%
全体	119 校/585 校	20.3%

**設問 1.** 今回の調査は、新型コロナウイルス感染症が学校健診や受診、児童・生徒の健康に一定の影響を及ぼし、健康悪化が危惧される結果となりました。未受診の理由は、「保護者の理解不足」「新型コロナの影響」「共働き」「無関心」でした。未受診をなくす対策として、国や地方自治体など行政側が、優先的に取り組むべき課題は何だと考えますか。

【複数回答可】

項目	人数	割合
子ども医療費助成制度の拡充	51 名	42.9%
眼鏡や補聴器の購入費用の助成を手厚くする	59 名	49.6%
歯科の矯正費用を助成する	47 名	39.5%
予算を確保して養護教諭を複数体制とする	40 名	33.6%
保護者等への健康教育の充実	60 名	50.4%
その他	20 名	16.8%



## 学校種別の回答分析

### 子ども医療費助成制度の拡充

	人数	割合
小学校	31名	45.6%
中学校	10名	28.6%
高校	10名	62.5%
全体	51名	42.9%

### 眼鏡や補聴器の購入費用の助成を手厚くする

	人数	割合
小学校	30名	44.1%
中学校	19名	54.3%
高校	10名	62.5%
全体	59名	49.6%

### 歯科の矯正費用を助成する

	人数	割合
小学校	26名	38.2%
中学校	15名	42.9%
高校	6名	37.5%
全体	47名	39.5%

### 予算を確保して養護教諭を複数体制とする

	人数	割合
小学校	22名	32.4%
中学校	11名	31.4%
高校	7名	43.8%
全体	40名	33.6%

### 保護者等への健康教育の充実

	人数	割合
小学校	38名	55.9%
中学校	14名	40.0%
高校	8名	50.0%
全体	60名	50.4%

◆「保護者等への健康教育の充実」を求める回答が全体で5割超となったが、特に小学校での声が多く出された38名(55.9%)。眼鏡等の助成は、年齢が上がるごとに段階的に眼鏡使用の頻度が高まることを示唆する結果であった。また、県内の子ども医療費助成制度において、現在7市町が高3まで現物給付している。この状況を表すように高校の養護教諭10名(62.5%)から同制度を拡充との回答が寄せられたのが特徴的だった。

設問2. 栃木県、市町、教育委員会などに対する要望等がございましたら、自由にご記入ください。(医師や歯科医師に対するものでも可)

(自由記述・抜粋)

「コロナ関連」

○コロナ対策学校の負担が大きく、学校健診後の指導にまで手が回らない状況です(中学校)

「歯科」

○歯科健診が医師によって結果が全く異なる。スクリーニングとは言っても、厳しく結果を通知した方が保護者の受診への意識も高まる。学校で異常がなければ、受診へのきっかけもない(中学校)

○受診をしてくれない家庭が多々あります(何本もう歯があったり、歯に穴が空いて物が噛めていない事を伝えても…)。これはネグレクトにあたると強く行政からも言ってほしいです(小学校)

「費用等について」

○少しでも保護者の自己負担額が減るといいなと思います。また、保護者から「文書を記載していただくのに、料金はどれくらいかかるのですか？」と聞かれた際に「分かりません」と回答しています(高校)

○高校生も医療費について、窓口負担がなくなったものの(医療費助成制度により)、医師による健診・検査結果を記入する書類の文書料が、病院により？書類により？かかる場合とかからない場合があり、受診勧告する際苦慮している(高校)

「健診について」

○学校のある市町には眼科医がいないため、眼科検診がない。校医の先生のように相談できる眼科医がいたらいいなと思います(小学校)

○学校の健診で要受診となった場合は、平日の医療機関受診について欠席扱いにしないなどの配慮が必要。保護者の仕事の都合や欠席を増やしたくないなどの理由もよく聞くため。受診を指示し、結果を受け取る際に生徒から「何でもないうって言われた。行かなくても良かったのでは？」と言われることが度々あった。受診で経過観察が不必要になった場合でも、健康診断の意義が伝わるように指示をしていただけるとありがたいです(高校)

「診療時間について」

○共働きの家庭が多いので、夕方、仕事帰りに病院に連れていけるくらい、診療

時間が遅くまで見てくれるところや、日・祝日でもみてくれる医療機関があったらいいかなと思います（小学校）

「保護者や児童・生徒本人への健康教育について」

○未受診家庭に指導が必要だと思いますが、未受診の背景を理解しSSW（スクールソーシャルワーカー）等と連携し福祉につなげるなど、過程に問題を抱える保護者に寄り添うような支援が必要だと思います。何らかの理由で、いっぱいいっぱいになっている保護者にただ強く受診を勧めても、学校との距離が遠のくだけのような気がします（中学校）

○市町や病院の方からも学校健診後の治療は大切であり、必ず行くべきと（継続して）保護者に指導助言していただきたいです（小学校）

「養護教諭の複数体制について」

○養護教諭は各校ほぼ一人配置であり、保険関係の専門分野を1人で抱え、健康診断や事後措置、事務処理に時間がとられている。…（中略）大規模校でなくとも、教育困難校は、養護教諭の複数配置を行政に要望しているが、実現には程遠い。せめて市町の教育委員会に退職養護教諭や支援員を配置し、巡回派遣などにより、保健室に人的支援をいただくことを強く要望したい（小学校）

「その他」

○経済的に困窮している家庭に「不織布」マスクを毎日求めることに難しさを感じています（高校）

○外国籍（保護者へも）の子ども達への治療勧告がどの学校でもダウンロードできるようにしてほしい（中学校）

設問3. 本調査結果は県内各学校に送付しました。ご覧になられていかがでしたか。次回以降の調査のため改善点など、ご意見をお伺い致します。

参考になった	116名(97.5%)	もう一工夫が必要	2名(1.7%)	未回答	1名(0.8%)
--------	-------------	----------	----------	-----	----------

（自由記述・抜粋）

○この調査が県、市、医療機関の連携のきっかけになると良いと思います（小学校）

○具体的な事例があったので、未然防止できるよう努めていきたいと思った（小学校）

○新型コロナによる休校後、ケガ（骨折などの大きなもの）の増加を感じていたが、他校にもそのような傾向があることがわかった（小学校）

○高校だと、受診率を上げることが難しいと感じています。しかし、今回のように、全国や県の実態が分かると比較し、次の指導につなげる際の参考になるので助かります（高校）

○マイナス面はよくわかったが「じゃあどうしたらよいか」がわからない。受診率の高い学校や地域の取組みも広めてほしい（小学校）

○他校の様子なども知れてよかったです。コロナの為ハミガキをしていない学校もあるのには驚きました。感染予防としては、無しの方が良いですね。しかし…と、悩むところです（小学校）

○新型コロナの影響で受診を控えているご家庭もあることを知り、意外でした（そういった理由で受診を控えているご家庭は本校では見られませんでした）。今回の調査をきっかけに受診をしないご家庭に、より働きかけることができ、受診していただくこともできました（小学校）

以上